

## 平成30年度 事業報告

平成29年度に社会福祉法人制度改革に伴う新体制が発足し、早くも2年が経過し、経営組織のガバナンスと財務規律の強化を推進して参りました。

昨年の胆振東部地震では、初めて体験する大規模停電に為す術の無い中、本会職員が迅速に点検と確認を行った後に被害の大きかった近隣三町へ向かい、復興への取組みの一端を担えたことは、今後の危機管理の貴重な財産となりました。

地域福祉事業においては、苫小牧市生活支援体制整備事業の受託から早くも2年が過ぎ、地域が抱える複合的課題に対応した地域資源の把握と開発を求められました。今後も「社協における総合相談」の確立に向けた体制を強化し「分野をまたがる総合的なサービス提供」のため適切な地域資源に速やかに繋ぐよう進めて参ります。また、「地域や行政と協働した福祉のまちづくり」の取り組みである、「ふれあいサロン」「あんしん生活サポート事業」「かぎ預かり事業」についても引続き推進し拡充を図りました。

市民相談事業では、取り分け後見事業において市民後見人が8名となり、後見支援員は53名の登録を得ることができ、後見支援体制の強化を図ることができました。

ボランティア事業では、「ふくしの学習」を市内21の小中学校を対象に展開し小中学校との連携のもと障がい者、高齢者への理解を広め福祉教育の充実を図りました。また、防災ボランティアの養成についても登録研修交流会を2回行いリーダーの育成と登録の拡大を行いました。

指定管理事業では、指定管理期間5年目の最終年度にあたり建物及び老朽化した設備の修繕について市と調整を行い、新たな指定管理の5年間を迎えるための、設備管理上のリスクの軽減を図りました。